

高等学校

平成 10 年 度

# 教育研究員研究報告書

保健体育

東京都教育委員会



# 目 次

研究主題 「自ら課題を発見し、課題解決ができる生徒を育成する学習指導の工夫」  
～「1・2年生からの選択制授業」「保健の課題学習」を通して～

## I 研究主題と研究の方針

1	主題設定の理由	2
2	研究の方針	2
3	研究の経過	2
4	研究の構想図	3

## II 研究の内容

### <体育>

1	選択制授業に関する意識・実態調査	4
2	調査結果のまとめと仮説の設定	7
3	研究の視点	8
4	選択制授業の学習指導計画例	11
5	選択制授業の指導事例（実証授業）	12
6	実証授業の結果と考察	13
7	研究のまとめと今後の課題	14

### <保健>

1	保健の課題学習に関する意識・実態調査	15
2	調査結果のまとめと仮説の設定	18
3	研究の視点	19
4	保健の課題学習の学習指導計画例	21
5	保健の課題学習の指導事例（実証授業）	22
6	実証授業の結果と考察	23
7	研究のまとめと今後の課題	24

# 「自ら課題を発見し、課題解決ができる生徒を育成する学習指導の工夫」

～「1・2年生からの選択制授業」「保健の課題学習」を通して～

## I 研究主題と研究の方針

### 1 主題設定の理由

これからの学校教育に求められるものとして、児童・生徒に「ゆとり」の中で「生きる力」をはぐくむという基本的な方向が示されている。この「生きる力」とは①自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動し、よりよく問題を解決する能力、②自らを律しつつ、他人と共に協調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性、③たくましく生きるための健康や体力の3点をその要素としている。

保健体育においても、生涯学習社会の中で学習指導要領が示す「自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を重視すること」等の趣旨にそって、学習指導の工夫・改善が求められている。

本年度は、激しく変化する社会の中で、自らの力で課題を発見し解決する能力を養うという観点から、体育では、「1・2年生からの選択制授業」を、保健では、「課題学習」を年間指導計画に位置付け、その具体的指導方法の研究を進めるため、「自ら課題を発見し、課題解決ができる生徒を育成する学習指導の工夫」という主題を設定した。

### 2 研究の方針

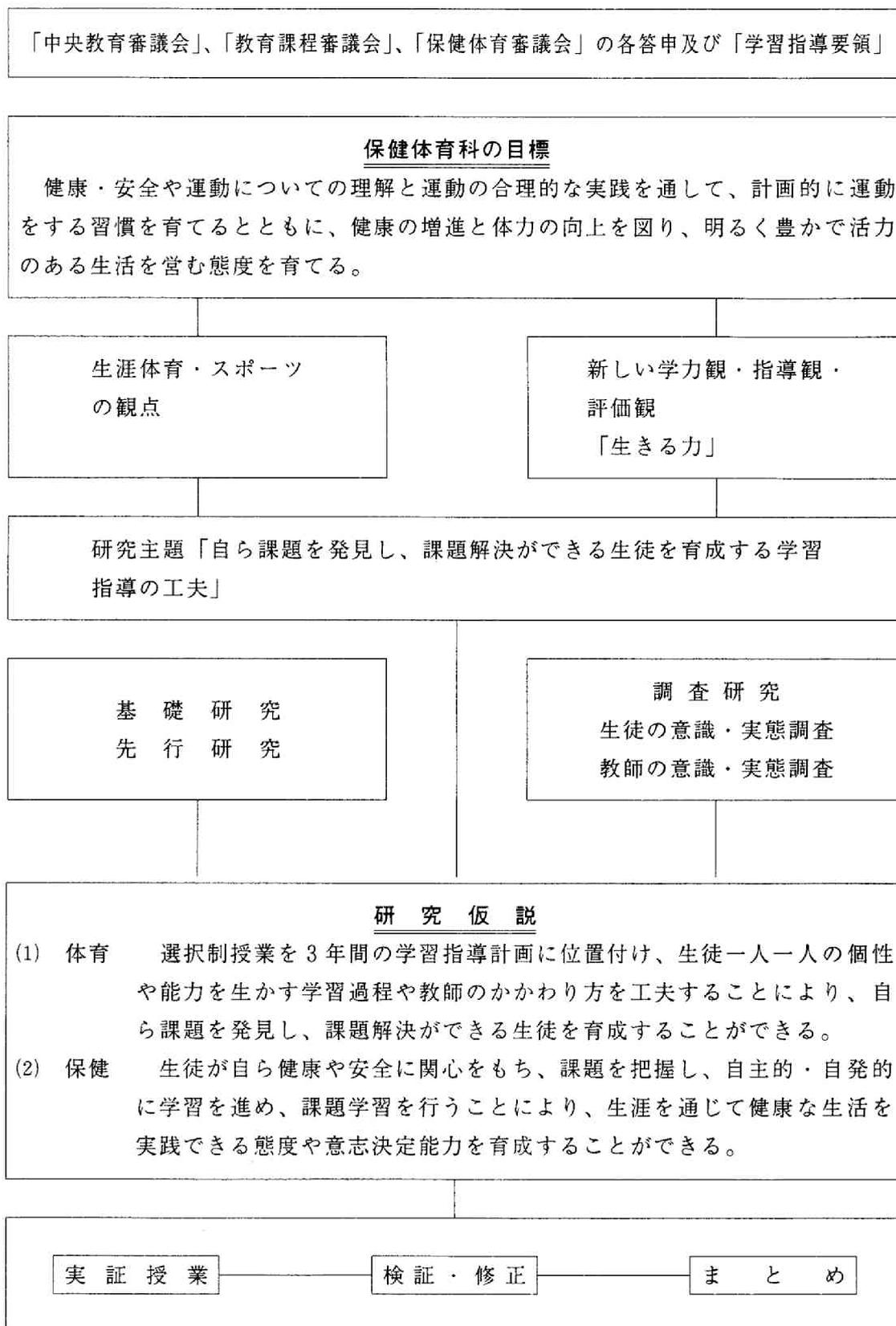
本研究では、1・2年生からの選択制授業の指導と保健の課題学習について、体育班と保健班の2班に分かれて、生徒及び教師の意識・実態調査を行い、その結果をもとに仮説を設定した。その仮説をふまえて、それぞれに指導計画を立案し、実証授業を行うことにより検証することにした。

- (1) 体育班では、課題解決型の学習形態である選択制授業の趣旨を確認するとともに、1・2年生では、選択制授業の実施状況が一割程度であることを踏まえ、1・2年生での選択制授業の実施を研究課題とし、学習指導の工夫・改善に取り組んだ。
- (2) 保健班では、本年度の研究主題にもとづき、課題学習における学習指導の工夫・改善を行い、生徒が自己の健康に関する課題を発見し、課題解決ができる能力を育成する学習指導の研究を進めた。

### 3 研究の経過

平成10年4月～6月	研究主題の設定、研究計画、研究構想図の作成
7月～8月	意識・実態調査及び集計・分析・考察、仮説の設定、指導計画の検討
9月～11月	指導計画の作成、実証授業、結果の分析・考察
11月～12月	報告書の作成
平成11年1月～2月	研究発表の準備、研究発表の整理と反省

#### 4 研究の構想図



## Ⅱ 研究の内容（体育）

### 1 選択制授業に関する意識・実態調査

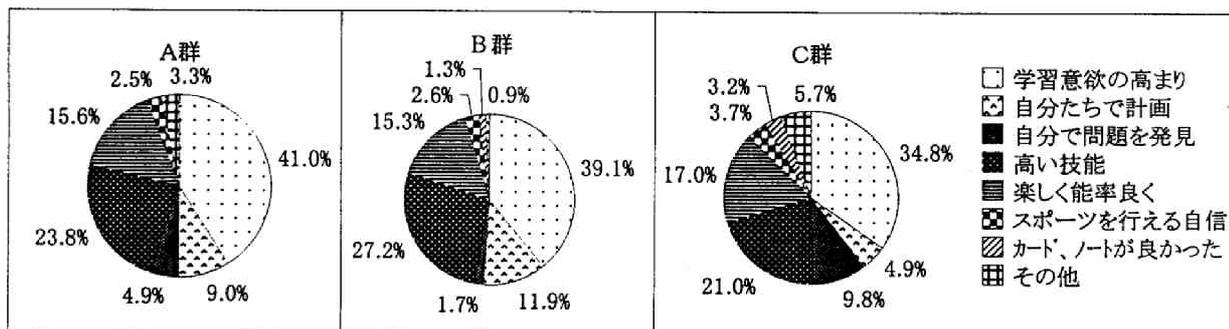
- ・調査期間 平成10年6月～7月
- ・調査対象 都立高等学校保健体育科教諭 102名（1・2年生実施校40名、3年生のみ実施校62名）  
都立高等学校 1年生107名 2年生112名 3年生183名 計392名
- ・調査内容 生徒（1・2年生実施校） 選択制授業の感想、問題点 教師のかかわり方 自己評価  
生徒（3年生実施校） 上記内容と同一  
教師（1・2年生実施校） 選択制授業への期待 学習計画の立案 学習資料の問題  
教師（3年生実施校） 今後の導入計画 1・2年生への導入の条件、課題

#### (1) 調査結果と考察

##### 《生徒の意識・実態》

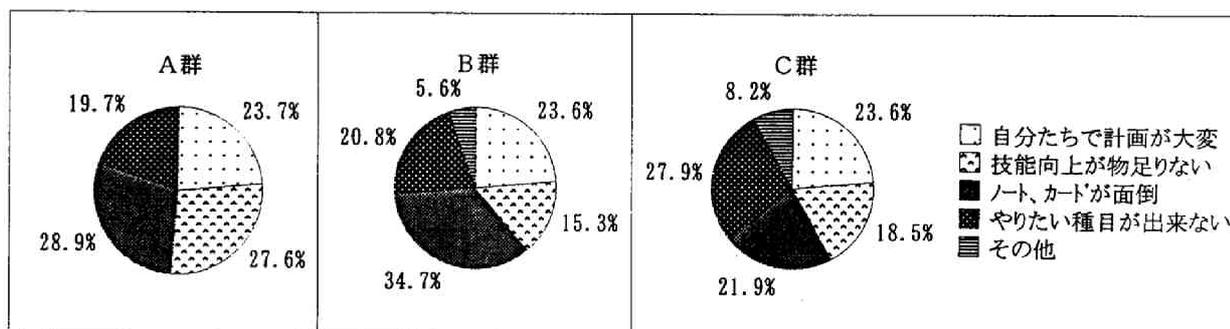
- A群…3年生実施校3年生のグループ
- B群…1・2年生実施校3年生のグループ
- C群…1・2年生実施校1・2年生のグループ

##### ア 選択制授業のよい点



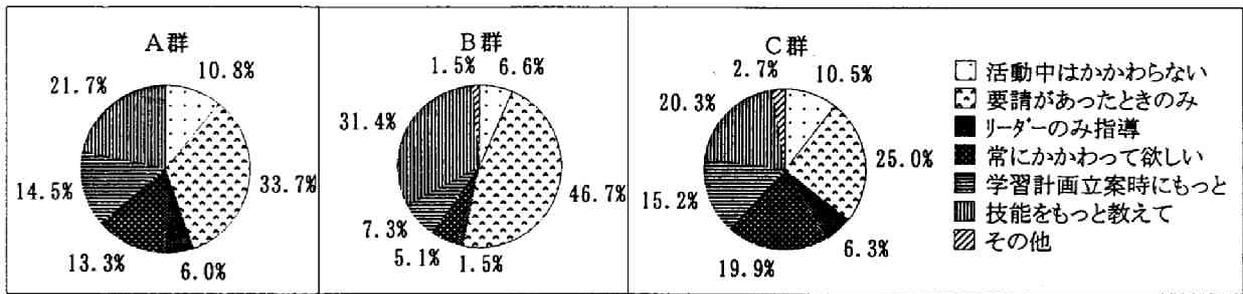
- ① どのグループも選択制授業のよい点を「学習意欲の向上」、「高い技能が身に付く」、「楽しく能率よく行える」と回答している。

##### イ 選択制授業の問題点



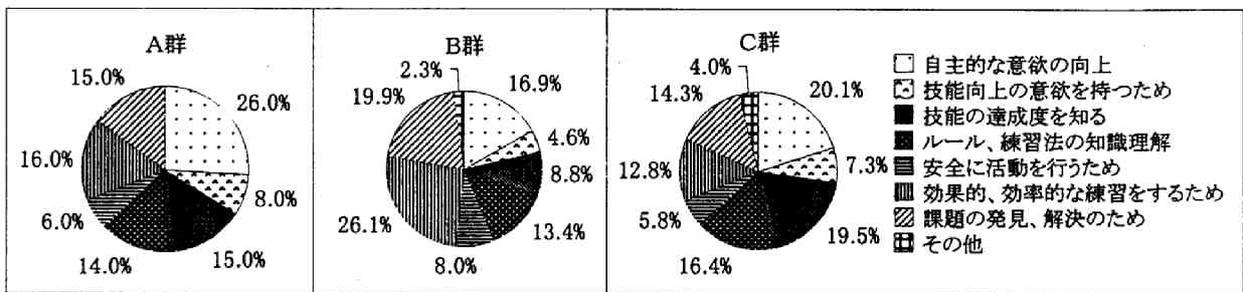
- ① A, B群の比較では、両者ともに「カード、ノートが面倒」というのが、最も多い回答であるが、B群では2番目に「技能向上が物足りない」ことを問題にしている。これはは技能向上についての教師の指導の工夫、生徒の活動の工夫が必要なことを示している。
- ② C群では、「好きな種目が出来ない」が最も多い回答であり、2番目には「自分たちで活動が大変」と回答している。

ウ 教師のかかわり方



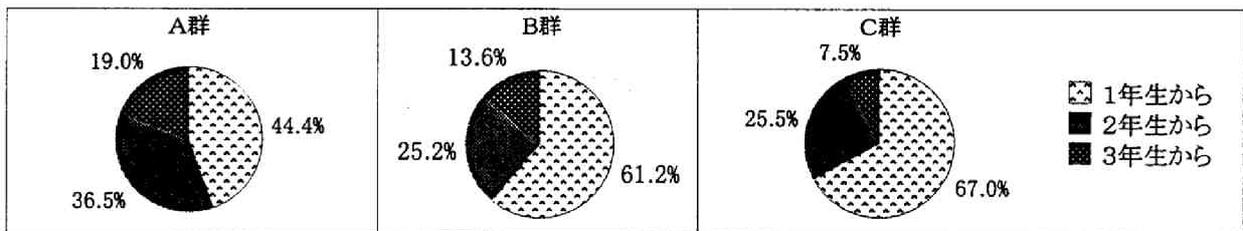
- ① 三つのグループともに、もっとも望んでいることは、「要請があった時のみ指導してほしい」であり、二番目に「技能を教えてほしい」と望んでいる。これは、自由に活動させてほしいと希望する一方、技能・技術に関しては、もっと教えてほしいと希望しているものと考えられる。
- ② また「常にかかわってほしい」は、A群では13.3%、C群では19.9%と回答率が比較的高いが、B群では5.1%と低い。これは、選択制授業に対する経験の違いであると考えられる。

エ 自己評価の問題 (個人カード、学習ノートの意義)



- ① 三つのグループとも個人カード、学習ノートの意義を十分理解している。
- ② 「課題の発見、解決」「効果的、効率的な練習をするため」に関しては、B群が最も高い回答率を示している。これは選択制授業の導入の成果であると考えられる。

オ 選択制授業導入時期の希望

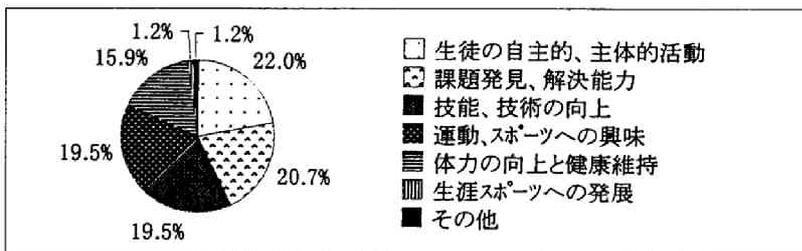


- ① 三つのグループともに1, 2年生からの導入を望んでいる回答が圧倒的に高い。
- ② 導入希望の割合が、A群とB, C群とではかなり相違がある。これは選択制授業の経験の差であると考えられる。

〈教師の意識・実態〉

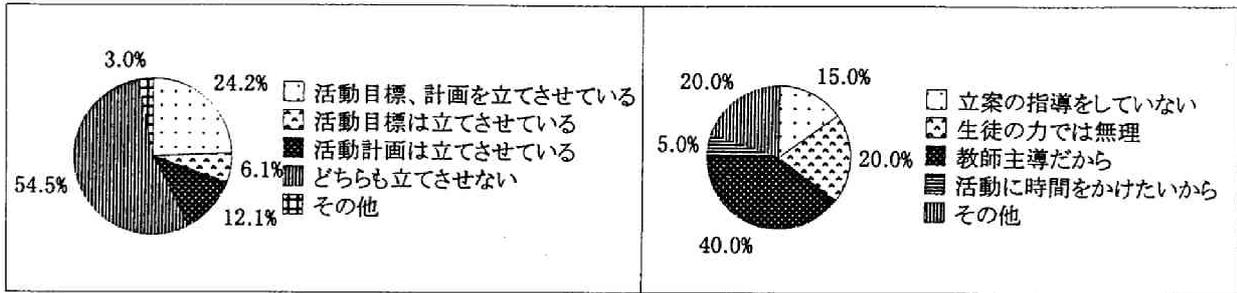
ア 1・2年次実施校の教師

(ア) 選択制授業を通じて生徒に期待すること



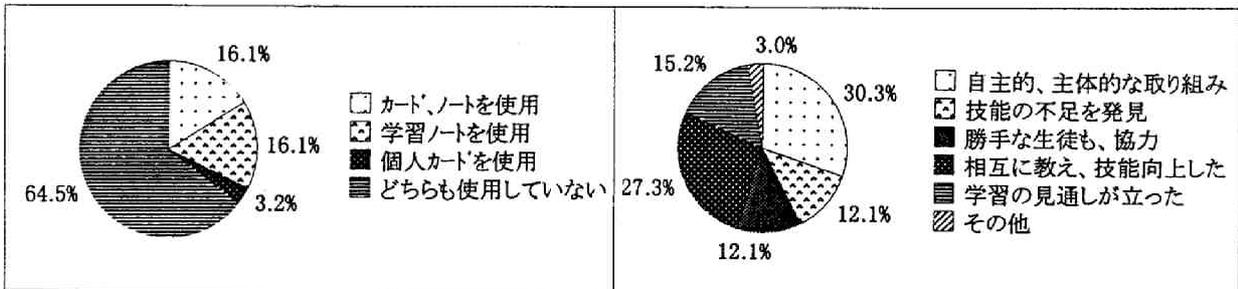
- ① 選択制授業に対する期待では、各項目とも差はないが、「生徒の自主性」「課題発見、解決能力」の回答率が高い。

(イ) 生徒に毎時の活動目標や計画を立案させているか、また立案させない理由



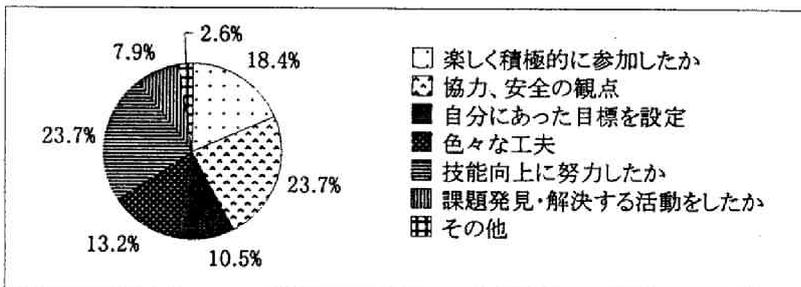
- ① 「活動目標、計画を立てさせている」は24.2%、「どちらも立てさせない」は54.5%と高い。
- ② 「立てさせない」理由として、「活動に時間をかけたい」というのは5%と低く、「指導をしてない」「生徒の力では無理」というものを合わせると35%とかなりの割合をしめている。また「教師主導だから」という回答は40%あり、選択制授業の学習の進め方は、教師主導という学習形態が半数程度あることを示している。

(ウ) 個人カード、学習ノートの使用とその効果



- ① 「カード、ノートの両方を使用している」という回答は16.1%であり、「どちらも使用していない」という回答は、64.5%にもものぼる。
- ② ノート・カードを使用することで、「生徒が自主的、自発的に取り組むようになった」とする回答は30.3%と最も多く、ついで、「お互いに教え合い、技能の向上が見られた」とする回答が27.5%である。

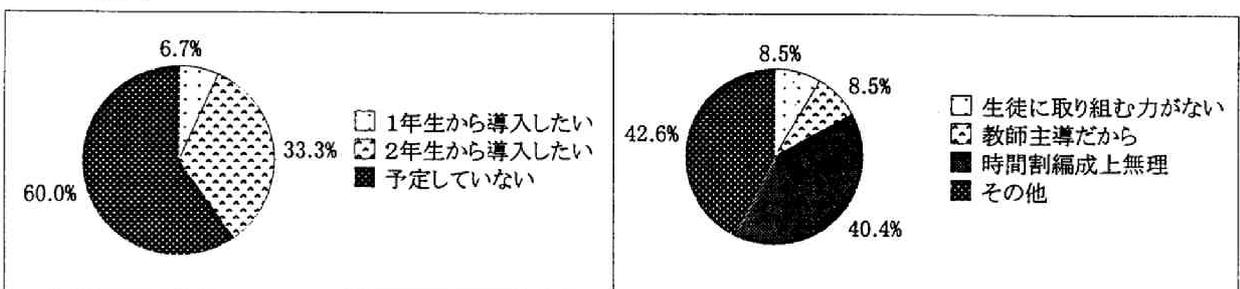
(エ) 自己評価の内容



- ① 「協力、安全の観点」という回答と「技能向上に努力したか」という回答が23.7%と多い。
- ② 「課題発見・解決」という回答は7.9%と低い。

イ 3年次実施校教師

(ア) 今後1・2年生で選択制授業を導入するか、また実施を予定しない学校の予定しない理由



- ① 「予定しない」という回答が60%あり、「2年生」からという回答が33.3%であった。
- ② その理由で最も多い回答は「その他」で42.3%であり、次に「時間割編成上出来ない」というのが40.4%あった。また「教師主導」、「生徒が主体的に出来ない」という回答を合わせると17%あった。これらのことから「生徒に任せることは出来ない」という教師の意識が働いている傾向がうかがえる。
- ③ 「その他」の理由は以下のような内容である。
  - ・ 1・2年で基礎を、3年での実施が継続性がある。
  - ・ 3年生で実施しているが、準備に時間がかかり現状では無理。
  - ・ 教師主導で授業を行うことが大切。
  - ・ 種目の偏り、体験させるという意味で必修で行わせる必要がある。
  - ・ 指導内容・活動が徹底できない。

(イ) 1・2年生で行うには、どのような課題、条件があるか

- ① 施設、教員数、時間割教科内の了解などの回答が多い。その中で
  - ・ 主旨を徹底するにはそれについての理解と学習をし、担当した内容について自信を持って指導できることが必要。
  - ・ 指導内容、活動の徹底、施設、教員の充足といった指摘もあった。

## 2 調査結果のまとめと仮説の設定

### (1) 生徒

- ア 選択制授業の意義については、よく理解している
- イ 教師のかかわり方については、「必要に応じてアドバイスしてほしい」、「より高い技能が習得できるようにかかわってほしい」と希望している。
- ウ 自己評価の意義と、個人カード・学習ノートの意義についてもよく理解している。
- エ 1・2年生から、選択制授業を行ってほしいと希望している。
- オ 選択制授業は3年生からでよいとする生徒が、現在の授業で課題としていることは、「リーダーの問題」と「技能向上の問題」である。

### (2) 教師

- ア 選択制授業の趣旨を生徒に理解させようと努力している。
  - イ 自己評価の必要性を感じているが、1・2年生実施校でも半数しか行っていない。
  - ウ また選択制授業を行っているのに、自己評価の観点で「課題の発見・解決」を掲げている学校は数%しかない。
  - エ 自主的、自発的活動を希望しながらも、1・2年生実施校でも約半数が、教師主導である。
  - オ 1・2年生導入を検討していても、施設、カリキュラム、教科・学校の合意、生徒の力不足を理由に6割以上の学校が無理と判断している。
  - カ 教師には、1・2年生では「教師主導」、3年生では「選択制授業」という固定的な考え方がある。
- 意識・実態調査から生徒と教師とでは以下の点が鮮明になった。

## 【生 徒】

- ◎ 1年生から実施したい。
- ① 学習意欲が高まるから。
- ② 楽しく能率良く授業が行えるから。
- ③ 高い技能が獲得できるから。

## 【教 師】

- ◎ 1年生からでは実施できない。
- ① 生徒の力では計画を立てるのは無理だから。
- ② 教師主導の授業だから。

- ◎ ノート、カードの記入が大変。
- ◎ 計画を立てるのが大変。

- ◎ 生徒へのかかわり方を工夫する。
- ◎ 生徒の希望をしっかりと把握する。

### 個人カード、学習ノートの活用によって

- ① 自主的・自発的に活動ができるようになった。
- ② 友達との教え合いで、技能の向上が見られるようになった。

生徒が自主的・自発的授業を展開するようになるには、教師がどれだけ「支援することができるか」による。直接的に指導することも大切だが、それでは生徒の主體的な様々な活動が生まれにくい。教師が「いつ」「どこで」「どのような」かかわり方をしなければならぬについては、生徒の活動をしっかりと観察することが大切である。

以上の結果から次のような仮説を設定した。

選択制授業を3年間の学習指導計画に位置付け、生徒一人一人の個性や能力を生かす学習過程や教師のかかわりを工夫することにより、自ら課題を発見し、課題解決できる生徒を育成することができる。

### 3 研究の視点

仮説の検証を行うにあたり、上記の意識・実態調査から明らかになった内容を踏まえて、生徒の活動欲求を満たし、生徒が自主的・自発的に活動を展開し、自ら課題を発見し、解決する能力を育成するためには、「教師がどのようなかかわり方をすべきか」を視点として研究を進めることとした。

#### (1) 学習指導に関して

ア 生徒による自主的・自発的授業の重視。

イ 生徒一人一人の運動に対する興味・関心、種目の経験、使用可能な施設を考慮し、希望種目のアンケートを取り生徒に決定させた。

(2) 学習過程に応じた教師のかかわり方

単元を「オリエンテーション」「自立的、自発的活動」「まとめ」の3段階で構成した。

教師は生徒の活動に対して、支援者的立場をとり、活動意欲の高揚につながる発問や課題提示を行う。

オリエンテーション	<p>◎ 選択制授業の理解を促す支援</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 選択制授業実施の趣旨・ねらいを説明し、正しく理解するように促す。</li><li>② 学習の進め方について正しく理解するように促す。</li><li>③ 学習資料（個人カード、学習ノート、授業計画書、技術解説書、練習方法マニュアル、VTR）を活用し、授業の見通しを具体化するように促す。</li><li>④ 計画や目標を作成し、相互に発表し活動を具体化するように促す。</li><li>⑤ 活動を自己評価することで、課題や目標が何かを理解するように促す。</li><li>⑥ 運動種目の特性を理解し、安全に実施する態度を理解するように促す。</li></ol>
自立的・自発的活動	<p>◎ 生徒に気付かせる支援</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 個人カード、学習ノートの活用が自分やチームの課題を解決する手段であることを理解させ、細かく目を通し必要に応じてアドバイスをする。</li><li>② 課題や目標達成の活動ができているか巡回し、円滑にできていないグループへ発問や課題提示を行う。</li><li>③ 学習活動の課題を明確にする学習資料の活用を促す。</li><li>④ 自己評価は、評価項目に従って客観的に記入するよう促す。</li><li>⑤ 新たな課題や目標を個人カード、学習ノートに記入する。</li></ol> <p>◎ 生徒の自主的・自発的な活動を促す支援</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 生徒の自主的活動を見守り、必要に応じてアドバイスを行う。</li><li>② 互いに教え合うことで、技能の向上がみられることに気付かせる。</li><li>③ 技能や技術の向上、ルールを理解することにより、楽しく活動できることに気付かせるようにする。</li><li>④ 個人カードや学習ノートに疑問点や改善点を記入することで、課題発見の方法を理解させるようにする。</li></ol>
まとめ	<p>◎ 課題解決の方法の理解と定着を進める支援</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 計画→活動→評価をくり返すことによって、課題解決の筋道を理解するように促す。</li><li>② 課題発見・解決の筋道の理解を進め、活動の楽しさを求めるようアドバイスを 行う。</li></ol>

(3) 学習資料の活用の工夫に関して

ア 個人カード、学習ノートの活用を十分に指導する。

- ① 個人カードには、自分の課題や目標を具体的に書き、活動することによって課題の達成度や疑問点を記入する。これに対して教師は、生徒からの問題点や疑問点にはカードで具体的に答え、課題解決の手がかりを与える。
- ② 学習ノートは、グループの課題や目標、学習計画及び役割分担を記入し、全員が同じ課題や目標に向かっていることを確認する。学習ノートを必要に応じて活用するようにアドバイスする。

グループ活動で発生した問題点や疑問点が記入されている場合は、それについてのアドバイスを必ず記入し、意欲的活動につながるようにする。

イ 学習資料について十分に指導する。

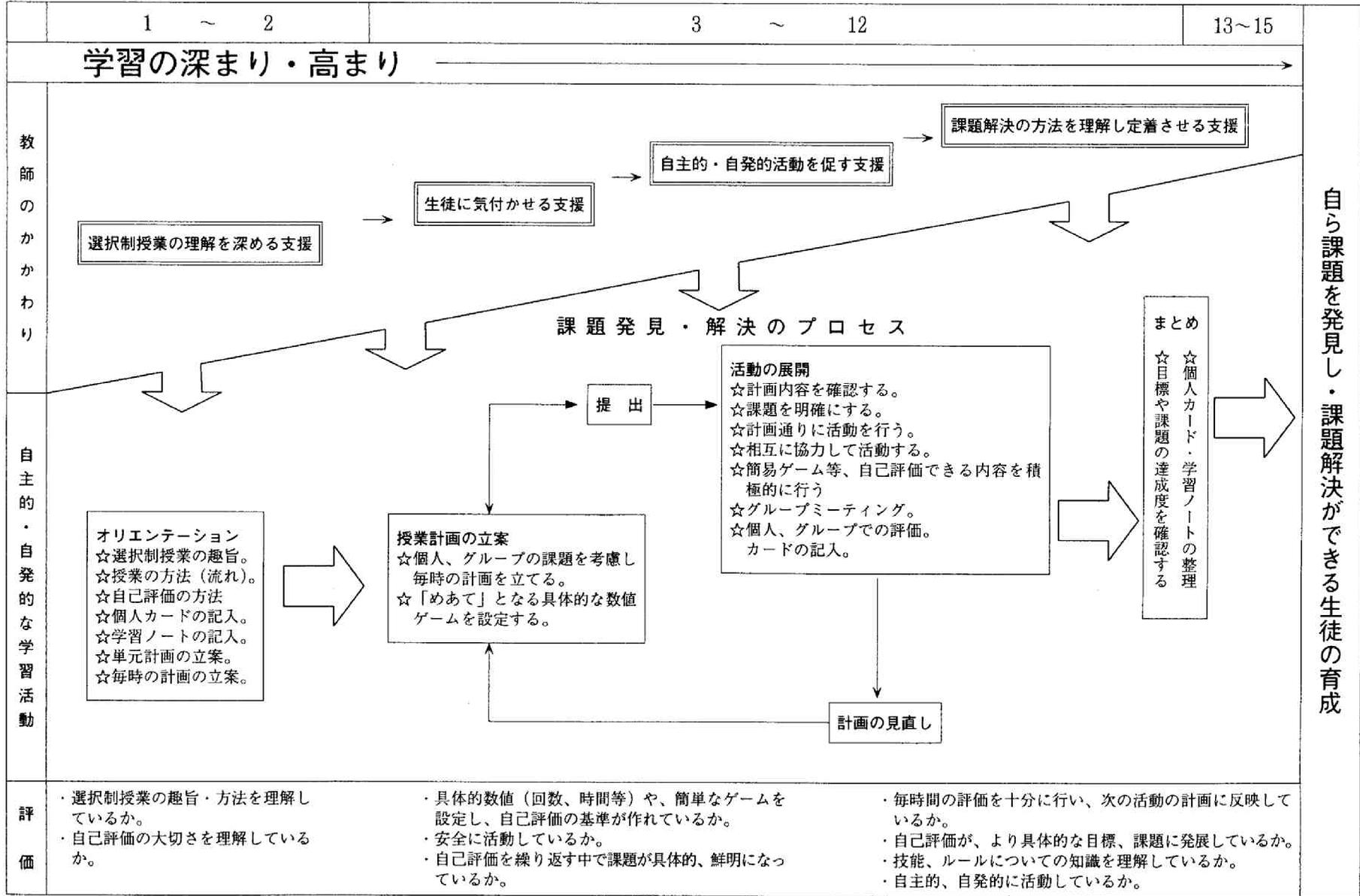
学習資料には、個人カードや学習ノートの他、各単元の授業計画書、技術説明書、練習方法マニュアル、VTR、スライドなどの視聴覚機器があり、課題解決に有効な手段となる。

- ① 授業計画書は、単元の計画を立てる段階で、生徒の学習の見通しを具体化させるよう活用する。
- ② 技術解説書は、自分やグループの課題や活動中に生じた疑問、今ある技能よりさらに高度な技能を身に付けたいと考えた時などに活用し、技能の向上や課題解決の方法を知るためには効果的である。
- ③ 練習方法マニュアルは、練習内容や練習方法を決めるときやグループ活動が停滞しているとき、今ある技能よりさらに高度な技能を身に付けたいと考えたときなどに活用する。
- ④ VTR、スライドなどの視聴覚機器は、自分やチームの技能を把握するとき効果的であり、技能の向上や課題を修正するときにも活用する。

特に技術解説書・練習方法マニュアルは、施設・設備の状況や生徒の実態にあわせて、市販のものだけでなく教師自らが作成したものを用意すると、一層生徒の意欲を引き出すことができる。

以上のように、生徒の自主的・自発的活動を補助するために、学習資料を効果的に活用することで課題の発見と解決するための能力を身に付けることができる。

4 選択制授業の学習指導計画例



5 選択制授業の指導事例（実証授業）

- (1) 単元名：選択制授業（男女共習、生徒の希望種目を設定）
- (2) 時間：16時間中の4時間目
- (3) 学年：第2学年 D・E組 男子38名 女子33名 計71名
- (4) 本時のねらい
  - ア 個人、グループの課題を把握し、学習目標の達成を図る。
  - イ 個人カード、学習ノート、学習資料を活用し課題の解決を図る。
  - ウ グループ内での役割を自覚し、責任を果たす。
  - エ 自己評価を行う。
- (5) 種目のねらい
  - ア ソフトボール —— 投、捕、打の基本的技能を身につける。
  - イ アルティメット —— フライングディスクの操作（投、捕）に慣れ、ゲームを通して戦術を理解する。
  - ウ バドミントン —— 基本的ラケット操作、ストローク、ドライブ、スマッシュの基本的技能を身につける。
  - エ バレーボール —— パス、スパイクの基礎的技能を身につける。
- (6) 用具：個人カード、学習ノート、学習資料、各種目の必要用具
- (7) 学習指導計画

展開	学習内容・活動	教師のかかわり	評価
はじめ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎学習計画の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容</li> <li>・個人、グループの目標</li> <li>・役割確認</li> </ul> </div>	<p>★学習内容が課題解決、目標の達成にそっているか確認するように促す。</p> <p>★ゲームを実施する場合は、めあてを明確にするように促す。</p> <p>★施設設備の安全確認を徹底するように促す。</p>	<p>☆個人、グループにあった目標、活動計画を立てているか。</p> <p>☆役割分担を基に活動しているか。</p>
なか	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎グループ活動 (課題、目標達成のための活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトボール</li> <li>・アルティメット</li> <li>・バドミントン</li> <li>・バレーボール</li> </ul> </div>	<p>★今ある技能で活動を楽しみながら、運動技能を把握するように促す。</p> <p>★ゲームを楽しむために必要な技能は何かを気付かせるようにする。</p> <p>★活動の状況を把握するために細かく観察し、ノートやカードを通して課題解決の方法に気付かせるようにする。</p> <p>★必要に応じて学習資料の活用を促す。</p>	<p>☆自主的・主体的に活動しているか。</p> <p>☆各種目の特性に応じた技能を身につけたか。</p> <p>☆技能を身につけ、ゲームの中でいかしているか。</p> <p>☆各種目に必要なルールを理解しているか。</p> <p>☆安全に留意して活動しているか。</p> <p>☆自己の役割の責任をもって実施しているか。</p>
おわり	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎活動の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人、グループの評価</li> <li>・カード、ノートの記入</li> <li>・新たな課題、目標の設定</li> </ul> </div>	<p>★課題解決のための評価ができているか確認を促す。</p> <p>★評価をもとに、新たな課題、目標や活動計画を立てるように促す。</p>	<p>☆ノートやカードに活動の達成度や疑問点、次の課題、目標を書き込んでいるか。</p> <p>☆課題解決の筋道を理解しているか。</p>

## 6 実証授業の結果と考察

仮説を検証するため、実証授業後に、生徒を対象にした「選択制授業についてのアンケート調査」を実施した。その調査結果と考察は、以下の通りである。

### (1) 選択制授業についてのアンケート

(対象：都立高等学校 第2学年男子37名 女子27名 計64名)

#### ア 選択制授業を実施して

「楽しかったし、満足している」……48名 (75%)

「まあまあだった」……15名 (23%)

以上の結果から、生徒は、2年生で選択制授業を実施しても、充実感が得られる。

#### イ 選択制授業を楽しく行うために必要なこと

「自ら進んでやろうとする意欲や課題意識」……37名 (57%)

「友達との協力」……26名 (40%)

以上の結果から、自己の能力にあった課題の設定、課題の解決に向けた工夫や意欲等が、選択制授業を充実させ、また選択制授業を実施するにあたって、生徒はお互いの協力を重視している。

#### ウ 教師のかかわり方について

「活動中は、申し出のあった時だけ指導してほしい」……38名 (59%)

「活動中は、常にかかわってほしい」……7名 (10%)

「技能をもっと教えてほしい」……7名 (10%)

以上の結果から、選択制授業ではいろいろな場面で支援・指導を使い分け、教師のかかわり方を工夫することが必要である。

#### エ 個人カード・学習ノートについて

大部分の生徒が、個人カードや学習ノートでその日の学習を反省し、新たな課題を設定する上で必要であると認めており、教師によるカードでのアドバイスは、好評であった。

#### オ 選択制授業の実施時期について

1年生から……35名 (54%)

2年生から……25名 (39%)

1年生から実施したいという生徒が54%、2年生からという生徒も39%あったことから、生徒は1・2年生から選択制授業を行ないたいという希望をもっている。

#### 選択制授業実施後における主な生徒の感想

○個人カードで、先生とコミュニケーションするのが楽しい。

○できないことも、自分のペースで解決できる。

○友達と協力しないとできないので、関係がより深くなった。

○充実した学習内容でなくても、常に目標意識をもっているので達成感がある。

○一斉授業の時よりも、教師が自分たちをよく見ている感じがする。

## 7 研究のまとめと今後の課題

### (1) 研究のまとめ

本研究において、選択制授業を通して研究を進めてきた結果、次のことが明らかになった。

- ア 選択制授業を1・2年生から実施するためには、オリエンテーションを重視し、生徒の学習経験を生かしてより豊かな選択制授業ができるように、授業の趣旨やねらいを十分理解させた。そのことによって、合理的・計画的に自ら進んで積極的に運動を実施する態度を育成することができた。
- イ 生徒は自ら運動種目を選択することによって、その種目に対して自分の能力・適性、興味・関心をよく理解し、計画的に運動することの大切さを身につけることができた。
- ウ 個人カードには、必ず授業中に感じた個人の問題点や改善点などを記入したり、自己評価をしたりするようにした。また、学習を支える学習ノートでは生徒の課題解決につながるアドバイスを積極的に行った。そのことにより、課題を設定し課題解決できる能力が身につき、次の授業への意欲的な取り組みにつながることもできた。
- エ 教師は、生徒が困って関わって欲しいという要望があるとき以外は、出来るだけ支援者の意識を持ち、生徒が中心になって自主的・自発的に学習活動ができるようにした。その結果、課題を設定し課題を解決していく能力が身についていった。
- オ 教師の多くが選択制の授業は、1・2年生の生徒にはまだ「計画的に運動する能力や習慣が身についていないので無理」と考えている。しかし、学習過程や教師のかかわり方を工夫することによって、1・2年生からの選択制授業の実施は可能であることが明らかになった。

### (2) 今後の課題

- ア 生徒の活動を中心に据えた、教師のかかわり方の一層の工夫と評価に対する工夫。
- イ 生徒の希望に応えられるような、教師の幅広いスポーツ種目の理解と学習資料の提供。
- ウ 教師の選択制授業についての理解と教科内での共通理解。
- エ 中学校からの一貫した選択制授業の計画。

## II 研究の内容（保健）

### 1 保健の課題学習に関する意識・実態調査

- ・ 調査期間 平成10年6月～7月
- ・ 調査対象 都立高等学校保健体育科教諭 138名  
都立高等学校 1年228名 2年224名 計452名
- ・ 調査内容 教師 ア 課題学習の実施状況、実施理由、課題のもたせ方、解決方法  
イ 課題学習で重点を置く内容  
ウ 保健のねらい  
生徒 授業の内容・方法に対する希望

#### (1) 調査結果と考察

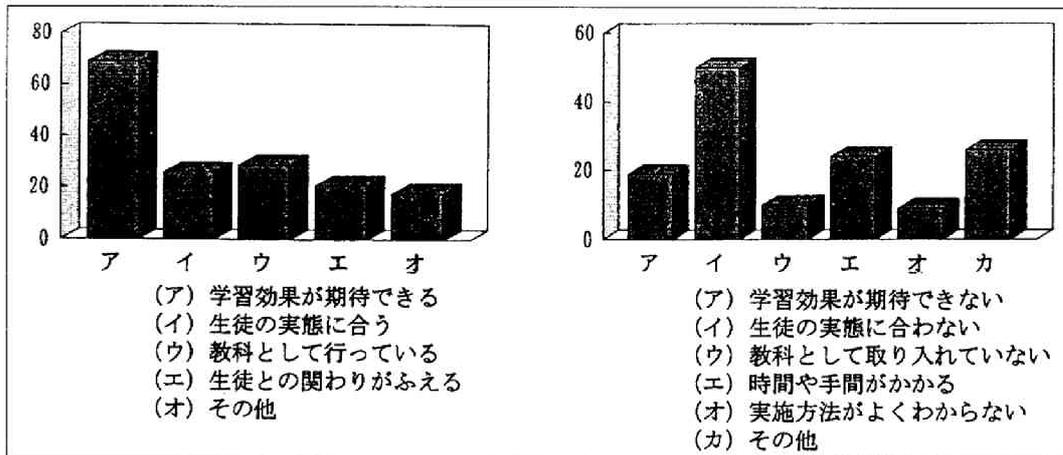
##### 《教師に対する調査結果》

ア 課題学習の実施状況・実施理由・課題のもたせ方・解決方法

##### (ア) 課題学習の実施について

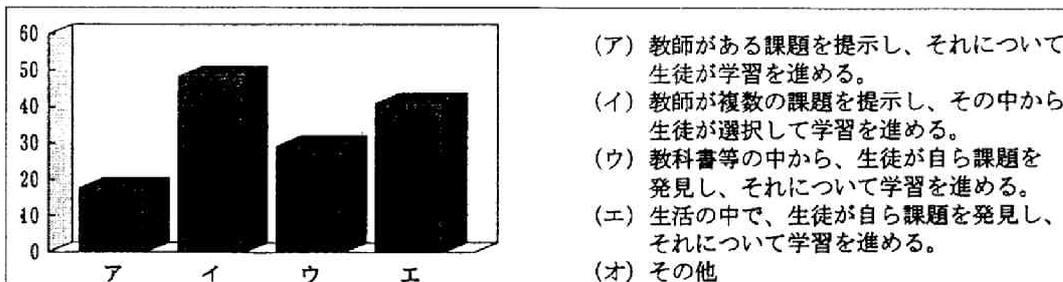
- ・ 課題学習を実施している学校は49.3%で、他の調査と比較すると年々増加傾向にある。
- ・ 実施している学年は2学年が多い。
- ・ 課題のもたせ方については、生徒の興味・関心が大事だと考えている教師が約半数である。

##### (イ) 実施している理由 実施していない理由



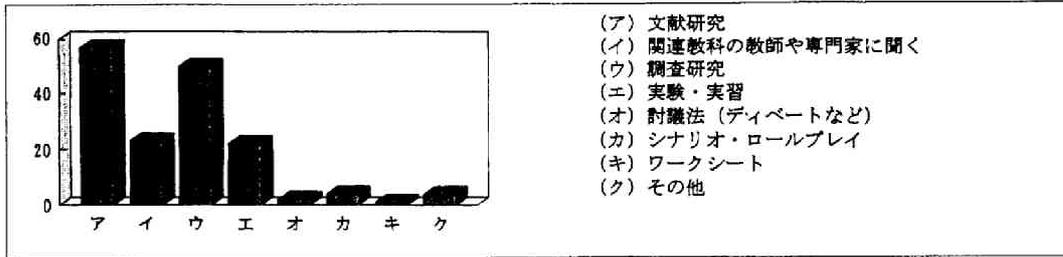
- ・ 実施している理由では「学習効果が期待できる」が69.1%で3分の2以上を占める。実施していない理由の「学習効果が期待できない」が18.6%と低い数値であることから、課題学習の効果はある程度認められていると考えられる。
- ・ 実施していない理由では、「生徒の実態に合わない」が50.0%で一番高く、「どのように実施してよいかよく分からない」は、8.6%と一番低い。実施方法はわかるが自校の生徒には合わないにとらえていると考えられる。

##### (ウ) 課題のもたせ方について



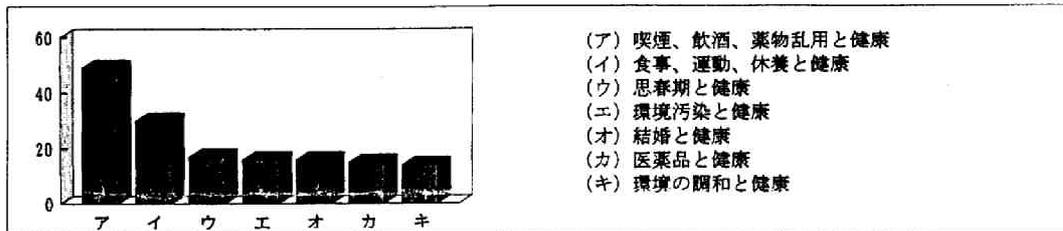
- ・ 課題のもたせ方は、「教師が複数の課題を提示し、その中から、生徒が選択して学習を進める」が48.5%で一番高い。また、「生活の中で、生徒が自ら課題を発見し、それについて学習を進める」は、41.2%である。生徒が自ら課題を見つける過程を取り入れている教師も少なくないことがわかる。

(エ) 課題解決の学習方法



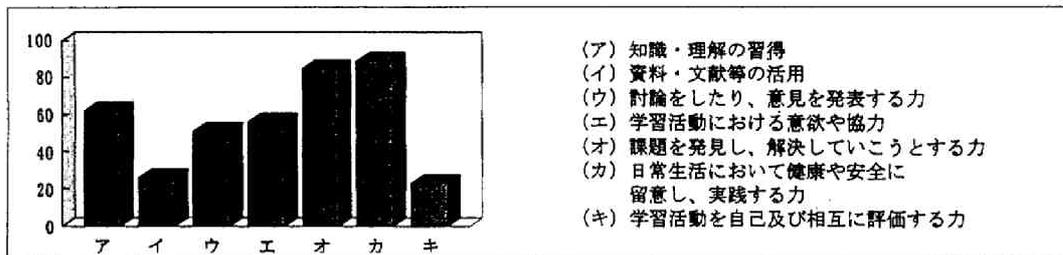
・課題を解決する方法は文献研究が83.3%で一番多く、続いて調査研究が73.5%である。調べ学習が中心であることが分かる。

イ 今後、課題学習で重点を置きたい内容



・いずれも生活に密接に関係する内容である。このことから課題学習は「身近で、日常生活に直接つながりやすく、扱いやすい内容に重点を置きたい」と考えている教師が多い。

ウ 保健のねらいをどこに置くか



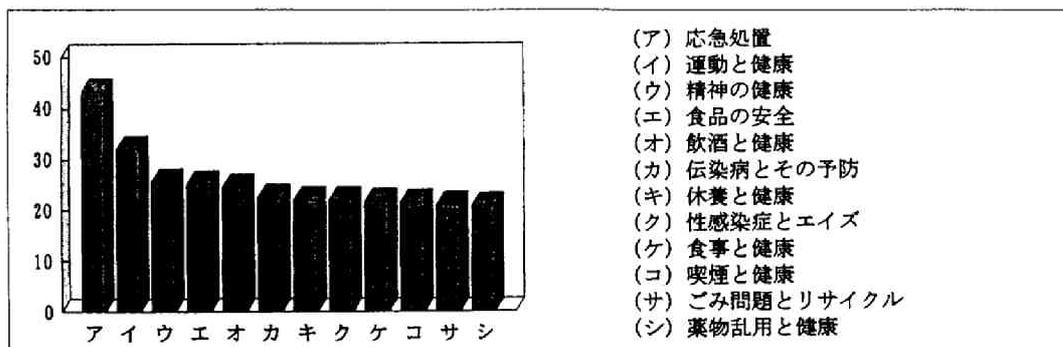
・「課題を発見し、解決していこうとする力」は、61.8%で、「日常生活において健康や安全に留意し、実践する力」は63%である。

・「資料・文献等の活用」は19%、「学習活動を自己及び相互に評価する力」は16.8%と低い数値である。

以上のことから、多くの教師は「課題を発見し、解決していこうとする力」や、「実際の日常生活において、健康や安全に留意し、それを実践していく力」を身につけさせることを重点的なねらいと考えていることがわかる。

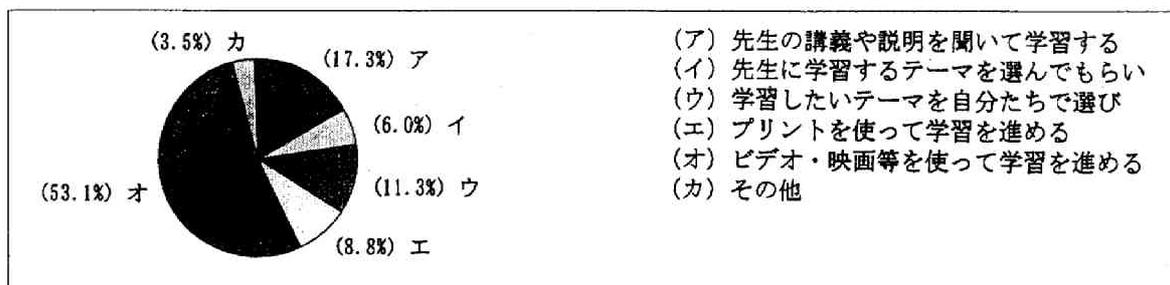
《生徒に対する調査結果》

ア 授業の内容に対する希望



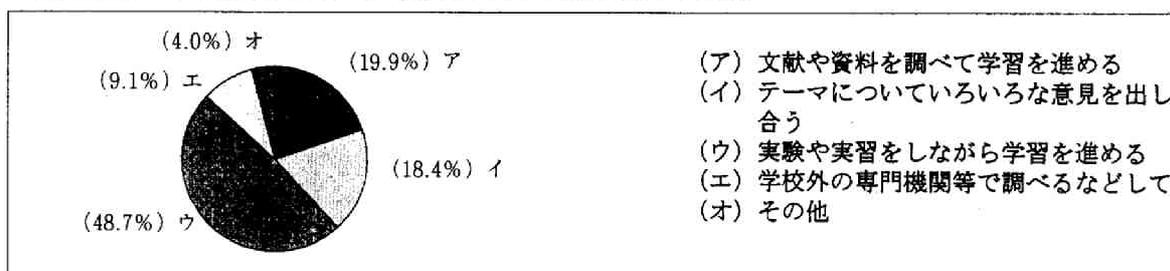
- ・「応急処置」が43.4%と多く、生徒は応急処置の内容と方法を身につけたいと希望している。
- ・2割以上の生徒が希望している項目は、第1章の「生活行動と健康」、第4章の「疾病の予防活動」等である。これらは自分の生活に密着した項目を学習したいということの表れであると考えられる。

#### イ 授業の方法に対する希望



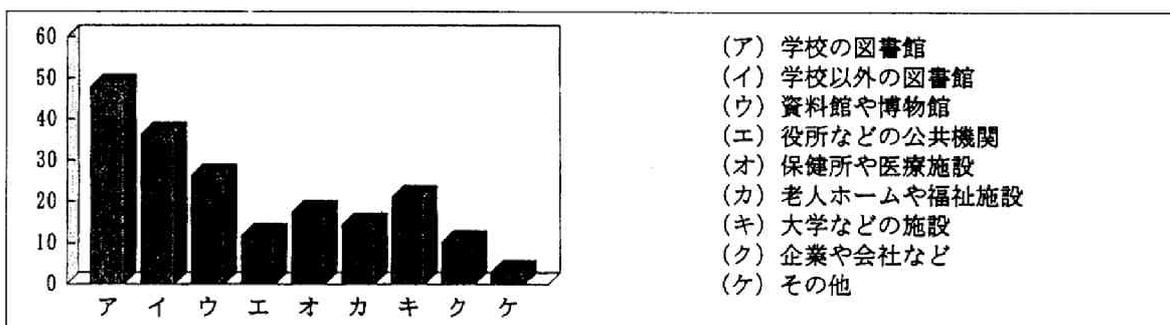
- ・「ビデオ・映画等を使って学習を進める」が一番多く、次いで「先生の講義や説明を聞いて学習する」が多い。これは、従来の教師主導型の授業から改善できないでいることが考えられる。
- ・課題解決型の授業を取り入れていく中で、生徒が自主的・主体的に課題を把握し、解決しようとする意欲を高める必要がある。

#### ウ 自分たちで学習を進めていく（課題学習）方法に対する希望



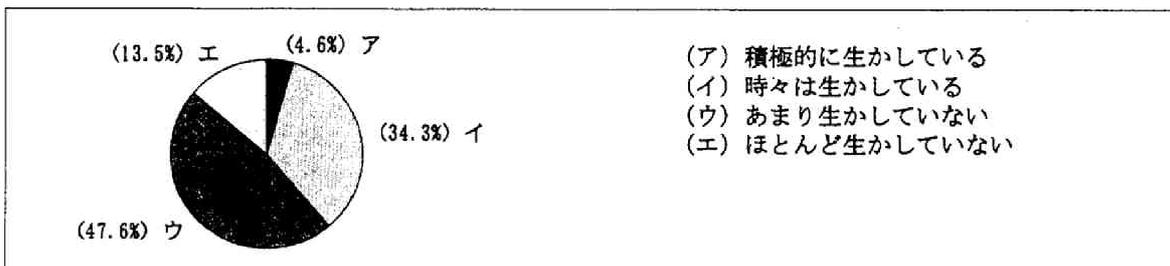
- ・「実験や実習をしながら学習を進める」が48.7%と一番多く、それにイとエを合わせると76.2%となり、生徒は体験的な学習を望んでいると考えられる。

#### エ どのようなところで調べたいか

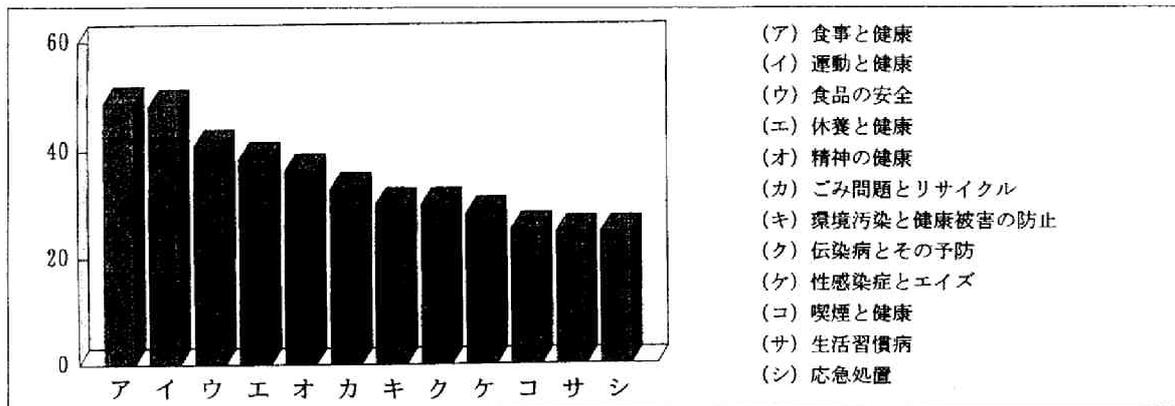


- ・「学校の図書館」の48.0%、「学校以外の図書館」の36.3%をみると、生徒が今まで行ってきた学習内容の経験をもとに回答していると考えられる。

#### オ 保健の学習が自分の生活に生かされているか

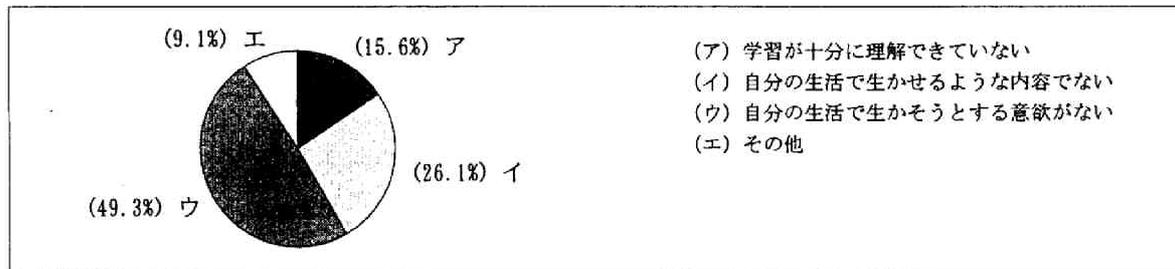


カ どのような学習内容が自分の生活に生かされているか



・ 1年生、2年生とも第1章の「生活行動と健康」に関する項目が多かった。「交通安全」、「応急処置」、「環境汚染」、「妊娠・出産」、「リハビリテーション」及び、第4章の「疾病の予防」は2年生で多かった。いずれも、アの学習したい項目とほとんど同じ項目が多く、興味・関心の高い項目が実生活の中でも生かされていると思われる。

キ 学習したことを生かすことができないのはなぜか



・ 「意欲がない」、「生かせる内容を学習していない」が多かった。このことから、学習したことを実生活で生かす意欲をもたせるとともに、内容をさらに精選し、興味・関心をもて、実生活に役立つ内容を学習できるようにする工夫が必要である。

2 調査結果のまとめと仮説の設定

教師は課題学習の学習効果を認め、その実施率は増えているが、さらに生徒に課題解決型の学習への意識をもたせる工夫をする必要がある。また、課題の持たせ方については、教師が課題を示している場合が多い。教師は生徒自身が自己の日常生活において健康を考え、実践できる力を身に付けさせたいと思っているが、生徒は保健の学習を自分の生活に生かせる内容を学習していないと考えている。したがって、生徒が興味・関心をもち、実生活に役立つ内容を学習できるような学習内容の精選及び学習過程の工夫が必要である。

以上の調査結果から本研究では、次のように研究の仮説を設定した。

仮 説

生徒が自ら健康や安全について関心をもち、課題を把握し、自主的・自発的に学習を進め、課題学習を行うことにより、生涯を通じて健康な生活を実践できる態度や意志決定能力を育成することができる。



ある。そこで、生徒が自らの健康上の問題や疑問に気づき、それらを課題としてとらえ、主体的に取り組むことができるように、学習過程として、「興味をもつ」「興味を広げ、深める」「課題を決める」を設ける。また、そこでの学習形態は「個人＝調べ」「グループ＝話し合い」を用いる。

イ 課題を把握する段階や解決する段階では、グループ内やグループ間で調べたことを発表・話し合う。話す・聞くなどの技能、表現が身につくとともに、思考・判断することで正確な知識や最新の情報を得ることができる。また、このことと毎時間の取り組みや記録、評価をすることで、すべての生徒が主体的に課題に取り組むことができる。

ウ 課題解決の段階では、調べた事柄等をもとに仮説をたて検証をする。思考・判断、意志決定を行うことで、学習したことが生活に生かしやすくなる（行動変容）とともに課題解決能力が身に付く。したがって、仮説の検証はできるかぎり体験的学習（調査、実験、実習、実踏）を行う。

エ まとめの段階は、基礎的・基本的事項を中心に知識・理解の定着を図る。また、仮説に対する検証結果や今後の課題についてまとめることで、思考・判断、意志決定を行い、行動変容に至ると考える。

それぞれの学習内容の基礎的・基本的事項を全ての生徒が理解するように、発表は全体で学習する場（全体学習）とし、十分に時間を確保する。

## (2) 教師のかかわりかたの工夫

ア 「オリエンテーション」や「課題を把握（広げる）段階」では、教科書やその他の資料などを用いず、生徒が自ら興味・関心をもとに学習をすすめるように支援・助言する。

イ 「課題を把握（興味・関心を深める）段階」では、発表や話し合いの方法、グループ編成について、生徒の興味を深めるように支援・助言する。

ウ 適切な資料の収集方法や施設（図書館等）の利用の仕方を助言する。

エ 「課題を解決する段階」では、体験的学習を取り入れられるように学習の進め方について助言や事例を示す。

オ 「まとめの段階」では基礎的・基本的事項を明確にし、内容を分かりやすくまとめようとして支援・助言する。また、発表後は教師が基礎的・基本的事項を中心に補足やまとめを行い、全ての生徒に理解が進むように支援する。

カ 全体を通して、記録や自己評価・相互評価のためのプリントやノートを作成、準備する。

## (3) 学習関連項目の例示

「課題を把握する段階」でグループ編成案を提示する際、個々の生徒が興味をもった事柄をどのような観点で集めたか、また、教科書のどの項目と関連があるのかをプリント等で知らせる。このことは生徒が興味を広げ深めることや課題を把握することを支援するとともに、取り扱えなかった学習項目や内容を明らかにし、その後の学習指導に役立つと考える。

4 保健の課題学習の学習指導計画例 「日常生活における健康課題」 配当時間15時間

学習のねらい

- (1) 課題学習を通して、自己の健康に関心をもつとともに、思考力、判断力を育み、意志決定能力を身に付ける。
- (2) 日常生活の中から健康課題を把握し、自ら課題を解決していく能力と態度を身に付ける。

段階		学習の流れ	形態	資料	教師のかかわり	評価
1時間目	興味を持つ	オリエンテーション 興味・関心のある事柄をあげる	個人	個人ノート	☆日常生活に密着した健康課題についての学習を促す。 ☆自ら課題を把握し課題を解決していく学習を促す。 ☆学習の見通しの理解。	◇主旨・見通しを理解しているか。 ◇身近な健康問題を取りあげているか。
2時間目	広げる	任意グループでの話し合い 興味・関心のある事柄を交換する	任意グループ	グループノート	☆6～8名程度のグループによるブレインストーミングの要領を示す。 ☆グループを巡回し支援。	◇健康についての興味・関心を広げているか。
3時間目	興味・関心を深める	個人で調べる 予備知識を得る	個人	個人ノート	☆資料等の事前準備の指示。 ☆図書館オリエンテーションの実施。	◇興味・関心のあることを、しっかりと調べているか。
4・5時間目	握める	興味・関心グループでの発表・話し合い 関連事項を知る	興味グループ	個人ノート	☆共通の興味・関心によるグループ分け。 ☆学習関連項目の例を示す。 ☆発表・話し合いに対する支援。	◇他の人の発表をよく聞き、興味・関心を深めているか。
	決める	課題および課題学習グループを決める			☆話し合いによる、学習課題決定。 ☆課題を決める過程での、学習グループの決定。 ☆日常生活での健康につながるような課題の決定。	◇適切な課題を決めているか。
6・7・8・9時間目	課題解決	学習計画をたてる 仮説の設定 検証方法の検討 仮説の検証	課題学習グループ	グループノート	☆課題にあわせた学習関連項目の例を示す。 ☆今後の学習の見通しや方向性の支援。 ☆資料の収集方法・場所等のアドバイス。(外部図書館・公共機関・インターネットなど) ☆課題解決に適した仮説の検証方法、学習方法の支援。	◇適切に学習計画をたてているか。 ◇役割分担をしているか。 ◇集めた資料を検討し、課題解決方法や仮説の設定と検証方法を決めているか。 ◇課題解決に向けて、具体的な取り組みが積極的に行えているか。 ◇仮説を検証することにより、課題解決が行えているか。 ◇役割分担を果たしているか。
10・15時間目	まとめ 全体学習	レポート作成 発表授業	グループ個人	個人ノート	☆基礎的・基本的事項を明確にする。 ☆レポートおよび発表用レジュメ作成上の助言(体裁・内容・その他)。 ☆適切な発表方法の指導・助言。 ☆他のグループの発表をしっかりと聞き、健康課題の基礎・基本事項の理解を促す。 ☆発言内容について補充やまとめを行う。	◇学習の成果をまとめているか。 ◇発表を適切に行えたか。 ◇他の班の発表を理解したか。 ◇生活習慣をあらためるような意欲がもてたか。

## 5 保健の課題学習の指導事例（実証授業）

「日常生活における健康課題」

- (1) 段階・時間：課題把握の段階（興味・関心を深める）15時間中4時間目
- (2) 対象：1年4組41名
- (3) 本時の学習内容：共通の興味・関心を持った事柄を調べたグループで発表し合い、発表を聞いて得た知識や疑問・意見を出し合い、話し合う。
- (4) 本時のねらい：各自が調べた内容を発表し、話し合うことによって、健康についての興味・関心を広げたり、深めたりする。
- (5) 展開

段階	時間	学習内容・活動	教師のかかわり	評価
はじめ	10分	1. 本時の説明。 (プリント説明とグループ発表)	・グループの人数の調整(5, 6名程度)。 ・他のグループへの移動に対する助言。	・説明が理解しているか。
		2. 席を移動して、グループごとに分かれる。	(個人で調べた内容をもとに、共通の趣味・関心を持つグループに分けておく)	・興味・関心とグループテーマとの関係が理解しているか。
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">                     1 G. 食生活と食品の安全、 2 G. 体格・体力・運動、 3 G. 疲労と回復、 4 G. 医薬品                      5 G. 飲食・喫煙・薬物乱用、 6 G. 精神と健康、 7 G. 疾病の発生とその予防、 8 G. 環境                 </div>				
なか	30分	3. レポート発表と要点記録。	・レポート発表と要点記録への支援。	・要領よく発表しているか。 ・要領よくまとめているか。 ・他の者の発表を理解しているか。
		4. 発表で得た知識や疑問、反論の記入。	・広い視野で考えられるように支援。	・得た知識を書くことができているか。 ・疑問を持つことができているか。 ・反論を書くことができているか。
		5. グループでの話し合い。	・各グループの活動の把握と助言。 ・解決方法への支援(文献研究のみで解決するのではなく、体験的学習、実験・実習・現地調査等で解決していく)。 ・各グループの進行状況の把握と、方向性への支援。	・積極的に参加しているか。 ・協力しているか。 ・意見をまとめることができているか。 ・他の意見を理解しているか。
まとめ	10分	6. 本時のまとめ (各グループでの話し合いの状況を発表)	・要点のまとめと発表への支援。	・グループの方向性をきめているか。

## (6) 評価

- 〈関心・意欲・態度〉：本時の授業に対して、積極的に取り組んでいるか。
- 〈知識・理解〉：発表する内容を十分理解していたか。また、他の人の意見を理解しているか。
- 〈思考・判断〉：話し合いの中で、自分の意見をまとめているか。
- 〈技能・表現〉：自分の意見を簡潔に、分かりやすく発表しているか。

## 6 実証授業の結果と考察

仮説を実証するため、課題学習後、生徒を対象に「保健の授業に関するアンケート」調査を実施した。その調査結果と考察は以下の通りである。

(アンケート対象：都立高等学校2校 第1学年男女 129名)

- (1) 「健康に興味・関心をもち積極的に授業に参加できた」が98%であった。身近な日常生活の中から、自らの興味・関心のある事柄について学習することにより、授業へ取り組む姿勢が積極的になり、健康についての意識を高めることができた。
- (2) 「話し合いを通して、身近な健康課題を見つけることができた」が95%で、話し合いを通して、健康的な生活を送るための課題を把握することができた。
- (3) 「話し合いのとき、自分の意見が言え、また他人の意見が聞いて良かった」が90%であった。同様の興味・関心を持つグループで、各自が調べた事柄を発表し合ったり、話し合いを重ねていくうちに、健康についての興味・関心を広げたり、深めたりすることができるようになり、健康課題について広い視野からとらえ、また深く考えることができた。
- (4) 「グループの中で各自が自分の役割を果たし、楽しく、皆で課題を解決することができた」が89%で、単なる文献調べで終わるのではなく、話し合いや体験的学習等を通して、グループ内で各自が役割を果たし、お互いに協力しあって楽しく課題を解決できた。
- (5) 「検証した事柄を、今後の生活に役立てようと思う」が96%で、「家族との食事を増やし楽しむようになった。」や「添加物の入った食品を確めて、できるだけ買わないようにする。」など具体的に変化した内容があげられていた。健康的な生活を実践する力が高まり、思考力、判断力が身につき、行動変容につながった。
- (6) 「体験的学習や実験、実地調査、アンケート調査などの学習ができて良かった。」と答えている生徒は40%と少なく、課題解決に向けての学習方法、利用施設等の指導・助言のなお一層の工夫が必要である。
- (7) 「課題を決めていくときに、教師のアドバイスが役に立った。」が84%、「教師のアドバイスを、課題解決に生かすことができた。」が84%であった。学習段階に応じて、教師が適切なアドバイスをしたり学習関連項目を例示することは、課題の設定・学習計画の立案・課題の解決を進めていくうえで、効果的であった。
- (8) 「発表では自分達のグループで調べた内容や考えたことを、皆に伝えることができて良かった。」が98%で、発表することにより、より健康課題を深くとらえることができた。
- (9) 「発表までの過程でいろいろ調べたことや、他のグループの発表を聞くことによって、健康についての様々な知識が身に付いた。」が95%であった。他のグループの発表を聞くことによって、多くの内容を相互に学習し、健康についての様々な知識が身につき、より広くより深い学習ができた。
- (10) 課題学習全体としては、身近な生活の中で、生徒が自ら課題を発見し、解決していく学習活動を通して、自他の健康や安全について認識し、自主的・主体的に学習を進めることができた。自分の生活においても積極的に健康の保持・増進に努めようとする姿勢が現れ、生涯を通じて健康的な生活を実践できる態度や意志決定能力の育成につながった。

## 7 研究のまとめと今後の課題

### (1) まとめ

意識・実態調査から、

- ①教師は課題学習の学習効果は認めており、その実施率は増えているが、生徒に課題解決型の学習意識をもたせる工夫をさらにする必要がある。
- ②課題の持たせ方については、教師が課題を示している場合が多い。
- ③教師は、生徒が自己の日常生活において健康を考え、実践できる力を身につけさせたいと考えているが、生徒は、保健の学習を自分の生活に生かせる内容を学習していないと考えている。という結果を得た。

したがって、生徒が興味・関心をもち、実生活に役立つ内容を学習できるような学習内容の精選及び学習過程の工夫が必要であると考え、研究の仮説を設定した。そして、仮説の実証を行うにあたり、「生活の中で、生徒が自ら課題を発見し、それについて学習を進める」について、①学習過程・形態の工夫、②教師のかかわりの工夫、③学習関連項目の例示の3つの視点から学習計画を立て課題学習を行った。

その結果、以下のことが明らかになった。

- ア 身近な日常生活の中から、自己の健康や安全についての興味・関心をあげることにより、自ら課題を把握し、課題解決に主体的に取り組むことにつながった。
- イ グループによる話し合いや、各自で調べた事柄を発表しあうことにより、健康についての興味・関心を広げたり、深めたりすることができ、健康課題の把握につなげることができた。
- ウ 課題を把握する段階での教師によるグルーピングや話し合いを進めるうえでの支援及び学習関連項目の例示等が課題把握の手助けとなった。各学習段階に応じて、教師が適切な支援を行うことが課題学習に効果があることが分かった。
- エ 生徒が自ら学習計画を立て、理解していくことで、健康的な生活行動につながる意欲や態度が身に付いた。
- オ グループでの話し合いや体験的学習は、課題を解決していくうえでの学習意欲やグループ内で協力する態度につなげることができた。
- カ 調査・実習・実験等の体験的学習については、その方法や内容、場所等の援助・助言を十分に行うことができず、課題が残った。
- キ 発表形式による全体学習を行うことで、他グループの学習内容を相互に学習でき、多くの基礎的・基本的事項を生徒に定着させる機会となった。

### (2) 今後の課題

- ア 体験的学習（調査・実験・実習等）を取り入れた学習活動の支援。
- イ 調査・研究活動における施設（図書館・公共機関・民間企業）利用の支援。
- ウ 体験的学習における調査・研究活動時の授業時間及び時間割との関係。
- エ 課題学習の学習内容と学習指導要領における内容の取り扱いの関係。
- オ 課題学習の観点別の評価及び評定。